

令和8年度（2026年度）育友会総会 校長あいさつ

令和8年（2026年）4月25日（土）草野貴光

令和8年度芦北高等学校「育友会総会」に際し、御挨拶を申し上げます。

育友会会員の皆様には、日頃より、本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、感謝申し上げます。本日の育友会総会が本年度の活発な活動につながることを祈念いたします。

さて、4月8日（水）の入学式で97名の新生を迎えました。そのうち県外から2名、芦北・水俣・八代以外の県内から3名です。全生徒数は243名となり、昨年度より41名増えました。とても嬉しく、感謝しております。町内の3か所のシェアハウスで生徒が生活していますので、お子様同様に可愛がってください。

生徒に話していることを一つ共有させていただきます。「稚心を去る」という言葉があります。「稚心」とは「子どもっぽい心」のことです。それを捨て去らない限り、何をやっても決して上達しません。人の能力を引き出すのにとっても重要な意味を持っています。成長を妨げているのは「子どもっぽい心」、要するに「わがまま」である場合が多いと思います。年齢に限らず、誰もが心の中に「大人の心」と「子どもの心」が共存し、うまくいかないと「子どもの心」が出てきます。新たな生活、突然の災害、急速なグローバル化、多様化など様々な変化が身近に起こっています。ただ不安がるのではなく、前向きに捉える考えを持ってほしいと願っています。

皆様御自身が高校生のとき、自分はどんなに人になるのか悩まれたこと、大人や社会の仕組みに疑問を感じて葛藤したことがあったと思います。振り返れば、その時期は自立するために大切だったのではないのでしょうか。お子さんが話すことはしっかり聞いていただき、諭すべきところは大人として、親として毅然と向き合ってください。学校教育は、生徒、学校、保護者の三位一体で行われます。学校と家庭でできることを互いに果たし、お子さんの幸せのために一緒に取り組みましょう。そして、子どもの成長は親の成長を越えます。期待し、楽しみにしましょう。

毎朝、「気を付けて行ってらっしゃい」の声掛けは大切です。一日落ち着いて過ごせるかと思えます。

改めて、決していじめや人を傷つけること、人を笑うことなどは許されません。自分の周りの人も幸せだから自分も幸せだと言えます。人としての基本的なことを大切に育む必要があります。自分と他者を大切にする、人権の尊重、道徳心、マナー、優しさ、寛容さ、互いに助け合う、人を傷つけないなど。失敗は成長の種に変えていき、信頼することから始める信頼関係を築きたい。お子さんが自立するために成長し、生徒・保護者・職員・地域にとって「いい学校」にしていきたいと思います。

結びに、芦北町では「すべては未来を担う子供たちのために」との思いから、芦北高校総合支援事業で多大な御支援をいただいています。これほどの支援は全国にも例を見ないことを知っていただければ幸いです。

育友会の皆様には、重ねて本校の教育活動に御理解、御協力をいただき、お力添えいただきますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。